

「自分のすがた」

第1組 専福寺 河野 篤

始めに、令和六年能登半島地震による被災に遭われた方に心より

お見舞い申し上げます。

私は八年ほど前から二匹の猫を飼っています。最近、その一匹が早朝に私を起こしにやってくるのです。当然、私は寝ていたいので無視をします。すると猫は鳴いたり爪を立てたりして、あらゆる方法で起こしに来ます。毎日やってくるものですから、ある日、カッとなって声を荒げて叱り、猫を怖がらせて部屋を追い出してしまいました。その後、前に読んでいた本のことを思い出しました。

自分が寝ていたいという都合で、起こしに来る猫を煩わしく思って追い出し、今度は自分の都合で「可愛い可愛い」と猫を撫でようと追いかける。自分の思い通りに「したい・ならない」と怒っている自分の姿を思い返したとき、何ということをしているのかと反省しました。

お釈迦さんはこのような感情を三毒「貪欲(とんよく)・瞋恚(しんい)・愚痴(ぐち)」と表現してくださっており、「世の中で(快・不快)と称するものに依って、欲望が起る。」と言われているのです。正信偈の中にも「貪愛・瞋憎

の雲霧、常に真実信心の天に覆えり」とあるように私の心を指摘してくださっています。

自分の思い通りにならないことはいくらでも出てきます。自分がここで話したことも時間が経てば忘れてしまうでしょう。人間とはそういうものだと思います。だからこそ、普段の生活の私たちは一体どういうものであるか。その意味を教え気づかせてくれるものがお釈迦さんや、親鸞さんの教えだと思います。

皆さんも手を合わせる際に少し考えていただけると幸いです。